

岸田 拓士¹・久保田 信¹・小林 亜玲¹・田名瀬 英朋¹：
和歌山県白浜町番所崎先端の浜に漂着したコマッコウ科鯨類について
Takushi KISHIDA・Shin KUBOTA・Arei KOBAYASHI and Hidetomo TANASE: A kogiid whale
stranded on an open beach of Bansho-zaki, Shirahama, Wakayama, Japan

2004年8月26日、和歌山県白浜町番所崎の外洋に面した浜(北緯35°41'40, 東経135°20'13)にコマッコウ科コマッコウ属に属する小型鯨類が一個体漂着しているのが発見された(図1)。この個体は発見時には既に死亡していたが、ごく一部の擦傷跡(図2)を除いては表皮の傷も少なく、発見当日まで数日連続していた猛暑にもかかわらず腐敗がほとんど見られないこと、また、一部の筋肉や背びれ、および下顎を採取した際にも腐敗臭はほとんどなかったことから、死後間もない個体であると判断された。

コマッコウ属にはコマッコウ *Kogia breviceps* とオガワコマッコウ *K. sima* の2種が知られている。本個体は、頭部が相対的に短く丸みをおびていること(図3)、および背ビレが大型で体幹の中央部に近く位置していること(図4)などの形態からオガワコマッコウ *Kogia sima* である可能性が高い。コマッコウ属の鯨類は洋上での視認が困難であり、漂着事例が多くないことなどの理由から、その分布・生態はまだよくわかっていない(加藤 1996)。日本ではこれまでにおよそ20件の漂着・混獲事例が、沖縄県から千葉県にかけての太平洋沿岸、及び福岡県・石川県から報告されているのみである(国立科学博物館 2004)。

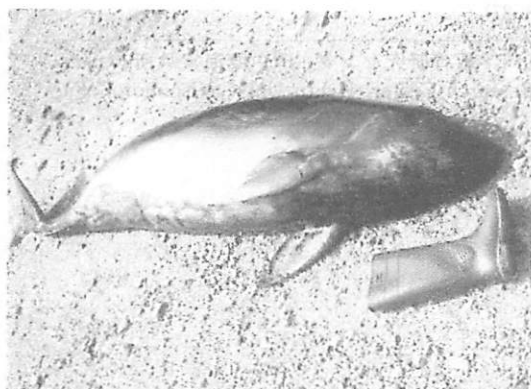


図1. 番所崎の浜に漂着したオガワコマッコウと思われる鯨類。



図3. 漂着個体の頭部。

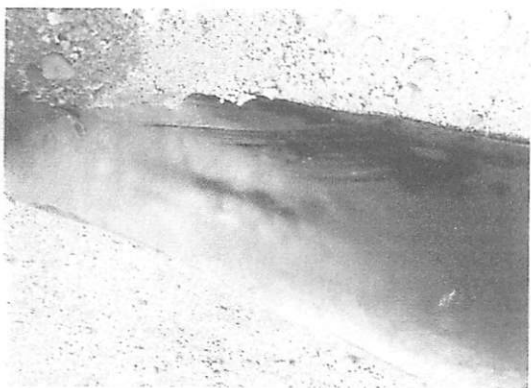


図2. 漂着個体の体表面に見られた擦傷跡。



図4. 漂着個体の背ビレ。

本個体の性別は生殖孔の形状(図5)からメスである。体長が236cmであったことから、十分に成長した成熟個体であると推測される。なお、死因は現時点では不明である。また、少なくとも右側半身には外部寄生虫の付着は見られなかった。

本個体を標本として収集保存することを試みたが、ストラディンギ地点がアプローチのきわめて困難な場所であり、おりからの台風接近による連日の荒天で波浪がきわめて高かったこともあって、残念ながら回収も埋葬もできなかった。



図5. 漂着個体の生殖孔。

謝辞: 本報告をまとめる際に数々のご助言を頂き、原稿を査読して下さいました国立科学博物館動物研究部動物第一研究室の山田 格博士に深謝致します。

引用文献

- 加藤秀弘. 1996. マッコウクジラ類. 日高敏隆(監). 日本動物大百科2. pp.50-55. 平凡社, 東京.
国立科学博物館. 2004. 石川創(編). 海棲哺乳類ストラディンギデータベース.
<http://svrshl.kahaku.go.jp/index.php> (access date: 2004. 8. 27).

¹ 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 ¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto Univ., Nishimuro, Wakayama, 649-2211, Japan

